

湯浅兼道筆『源氏物語聞録』『空蟬』 解題・翻刻

日向一雅
湯浅幸代

解題

『源氏物語聞録』（五冊九帖）の第二冊は、「空蟬」と「夕顔」の二帖を収める。今回は「空蟬」の翻刻を掲載する。「空蟬」の講義は、寛保元年（一七四一）十二月七日と同日十一日の計二回行われる。

この講義の特徴は、碁を打つ空蟬と軒端の萩、またその様子を垣間見る光源氏の位置関係が、建物の構造とともに、具体的に示される点である（五ウ・六オ）。また、空蟬と軒端の萩の装束についての解説も詳しく（六ウ〜七ウ）、後に、源氏が寝所に侵入し、空蟬が単衣一枚を着てすべり出た場面についても、講師は当時の装束から説明し、さらに兼道は、自身の案として、多くの衣を着重ねた中での一枚であったと頭注を付ける（一三ウ）。このように、物語が描く風俗についての詳細な注釈は、語句の読み方や、解釈へのこだわりとは別に、場面を具体的に思い描くことで、本文を正確に把握しようとする講師と筆録者、双方の意図が感じられる。また、そこには、以前、「艶書」の説明として付けられた「箒木」の頭注「一略一通茂（ミチモチ）ノ作ニテ久我（クカ）殿ヨリ一条殿へ進ゼラル艶書ヲ京ニテ見ル持タキ者也」（注1）といった京文化への憧憬も同時に窺える。

「通茂」とは、江戸中期の堂上歌人・中院通茂（一六三一—一七一〇）を指すと見られる。また、その息・通窮は、奥書に記された「故修理大夫」・蜂須

賀吉武（徳島藩五代藩主・蜂須賀綱矩の長子）の歌の師であった。兼道の講師・那波魯堂（一七二七〜一七八九）も、京都で私塾を営んでいた時期があるが、兼道はその頃から魯堂を師としていたのだろうか。ともかく、京で見た中院通茂作の「艶書」を、蜂須賀家との縁から、頭注に記したと見られるが、「持タキ者也」といった言葉は、素直に心情を吐露した表現と見てよいだろう。

湯浅兼道は、宮本武史編『徳島藩士譜』下巻（徳島藩士譜刊行会、一九七三年）により、徳島藩藩医、初代・湯浅堯民（諱・兼道、一七八八年没）であることが判明した。兼道の「御雇」は、明和二年（一七六五）四月であり、その五年後、明和七年（一七七〇）二月に『聞録』の奥書が書かれたことになる。やはり、藩との強い関わりによって、この『聞録』が成立したと考えてよいだろう。さらに、「堯民」という名は、儒者である魯堂を師とすることから明らかかなように、兼道が儒医であったことを示している。また、兼道の家は、医師として四代続き、五代目・圭造の時に明治維新を迎える。奥書に見える講義伝受者の名前やその経緯についての説明、また、「受_レ其傳_一毫_不漏_脱」といった書き方は、『源氏物語』の秘説伝受の識語に近く（注2）、受講そのものを称揚する感もあるが、「以授_二子孫_一不_三告出_二於窓外_一云」との記述には、兼道の初代としての自負を窺うことができるだろう。

注

1 湯浅兼道筆『源氏物語聞録』「篝火」（七一才・頭注）、『古代学研究所紀要』第4号（二〇〇六年度）所収。頭注全文は以下の通り。

（○艶書ハ皆薄様ニシテ色ハサマ／＼アル也ニ枚ヲウラ表ニス白表赤ヲ裏ト云様ニシタ者也白ニ緑ノ裏ヲ春ハ柳ノ薄様ト云夏ハ卯ノ花重ネト云大分品多キ者也通茂（ミチモチ）ノ作ニテ久我（クカ）殿ヨリ一条殿へ進ゼラル艶書ヲ京ニテ見ル持タキ者也）

2 伊井春樹編『源氏物語注釈書・享受史事典』（東京堂出版、二〇〇一年）によれば、『源氏物語三箇大事切紙』の末には、次のような識語が添えられているという。

右源氏物語三箇之秘訣以相伝之正説奉授禅定殿下訖被守此道之法度全不可有漏脱者也

天正二年四月廿日 権大納言実澄

右、「禅定殿下」は九条種通のこと、「権大納言実澄」は三条西実枝のことであるが、他の伝本には、続けて、種通から松永貞徳へ、貞徳から狭々野屋長孝へ伝授された旨、それぞれ「猥不可漏脱者也」との言葉で終わる識語によって示されている。

〔参考〕湯浅氏・系図

①初代・堯民（兼道）——②養子・文丈（兼尚）——③二代・文生（知一）——④三代・堯民（以道）——⑤四代・文生（恒道）——⑥五代・圭造（以直）

①御薬園御用 富田屋敷御番医師 ②御花畠御番医師

③医師（御本城御番）御産御用 *祖父堯民の跡目を継ぐ。

④医師 江戸住 ⑤医師 ⑥不明

以上、宮本武史編『徳島藩士譜』（下巻）による。

（湯浅）

〔付記・奥書〕

第五冊【六十二ウ】

先君故修理大夫与ニ南冥院殿ニ隔レ年

述*職于東武ニ時徴ニ得中堂原安適者ニ聞ニ

和歌者流之書ニ帰レ阿日亦令レ從レ駕翁来ニ

于茲ニ次我師那和先生就ニ其旅寓ニ聽ニ此

物語ニ從レ初至ニ葵卷ニ大凡九帖翁曰此書

洪漠大率通ニ此九帖ニ則全*編之积例可ニ

以準知ニ矣余再侍ニ華山那和君ニ受ニ其

傳ニ毫*不ニ漏脱ニ而筆*記且併ニ記壺井義

知所考之官職私考ニ以授ニ子孫ニ不ニ昔出ニ

於窓外ニ云 明和七庚寅年二月朔旦

【六十三才】

娥眉湯浅兼道記

凡例

- 一、底本は明治大学中央図書館蔵の湯浅兼道筆『源氏物語聞録』（中央貴重書庫092.475/H）を用いた。
- 一、本文は原態に忠実であることを旨としたが、文字の表記について、次のような操作を加えた。
 - 1 異体字は通行の字体に改めた。
 - 2 合字は分割して翻刻した
 (例) 唇↓書 寸↓時 畧↓略 虽↓雖 难↓難 槩↓概
 右↓ヨリ メ↓シテ・シタ 下↓コト
 - 3 漢字に付された濁点は（ゝ）で表した。
 - 4 振り仮名などの傍記は、右側のものを（ ）、左側のものを（ ）で括った。
 - 5 本文に傍記されている日付は ≪ ≫ で括った。なお丁数が一緒に記されている場合も同様に表記した。
 - 6 送り仮名は標準の文字サイズに改めた。ただし、返り点付きの漢字においては、文字サイズを小さいままとした。
 - 7 割り注は「」で括り、文字サイズを標準の大きさに改めた。なお、割り注内の改行は / で表した。
- 一、反復記号は、ゞ 々 / など、原態に近い形で翻刻した。また、濁点の付されたフドリ字は / () で表した。
- 一、豎点の表記は右側のものを「御*腹」（四才）、左側のものを「心安ク」（五才）のように表した。
- 一、見せ消ち・書き損じ等は、該当本文に二重抹消線を付し、傍書された訂正文字を（ ）で括った。

一、抹消は●で表した。

- 一、写本の損傷により判読不能の文字は□で表した。
- 一、挿入記号は◇で表し、挿入文を（ ）で括った。但し、「消息◇トハ」（三ウ・頭注）は、写本に挿入記号はないが、挿入と解釈して表記した。
- 一、二文字以上の空白は「空白」で表した。
- 一、和歌の開始記号は「で表した。
- 一、本文中に見られた「の記号は『で表した。
- 一、頭注は（ ）で括り、各丁の本文の後に記した。なお、丁をまたぐものは、開始丁にまとめて掲載した。
- 一、意味不明の文字列を「(番号)」と表し、その箇所を別掲した。

※作業は以下のとおり担当した。

(翻刻) 湯浅 (修正) 日向

なお、二〇一六年度に、湯浅と関恭平（明治大学大学院博士後期課程・RA）で再修正を施した

翻 刻

【一才】 源氏物語聞録「空蟬三ノ夕顔四」

【一ウ】

【二才】

《十二月七日會》

空蟬

此卷ノ名ハ「空蟬ノ身ヲカヘテケル木ノモトニ猶人ガラノナツカシキ哉ト云哥ヲ以テ題号ニ銘シタ者也猶卷ニ豎横ト云アル是ヲ帚木ノ次カク故豎ノ并ビ也横ハ五月カラ十月迄ノ間書ニヤハリ五月ノ事書ツ、ケニシテアル五月ノ事十月ノ次ニツケトモソレヨリマヘテナヒ故横ノナラビト云マヘ入レ六月ツ、ケ書故豎ヘ次第セズ横ヘソレタ者是横ト云也豎横カネルハ五月カラ十月事アルニ三月事書同ジ時分事カケドモアトヘ引残り三月カラ師走翌年ノ間ノ事迄アルヲ豎横グスルト云也豎横豎横カネルト云三ノ違アル端ニクハシフアル猶卷ミレバ知レル也此豎横ノ並(ナラビ)ノ事ニツキ史記ノ書ザマニ模(モ)シタ者ト云史記ハ三皇五帝本紀秦漢ト次第シテアル漢モ武帝迄アルアトヘ立カヘリ項羽ハンクハイ長良ノコト書此例トイヘドモ必豎横史記ニモシタニ非スコレヨリ以前ノ

【二ウ】

濱松物語ウツホ(ヲ)ノ類皆豎横アルソレニモシテ書也史記ヲモスルニ非ズ是ハ漢ニモカウシタ例アルトハ云ベキ也史記ヲ以豎横書ニ非ズ倍此卷ハ帚木

ニカキツバケ帚木ニ二度ノ方(カタ)違スル二度メノ方違ニ又中川ノ紀ノ守ノ処へ行ソコニ御シンナクアル事也此卷ノコヨヒト云ハヤハリ中川ニトウ留ノ夜ノコト也帚木ハ五十ヨ丁アル此卷ハヤウヤク十二枚ホカナヒ也帚木ノ末◇(ト)是ト同事故帚木ノ末ノ卷ヨリ是ヘ書加レハアチモ卅四五丁ニナリコチモヨイ加減ナレドモ此半分取アチヘ入レル也ソレナゼナレバ帚木ガ品定デアマレカタノ、退屈ナ様ナ故両ドノカタ違事入レツヤツケ和也ソレ故コチラ少(スクナク)ナル必竟云バ品定スミ方違カラ此卷也チトアチクスム故ニアチヘ取ル故アト少ナル也

○ネラレ―是ハカノニドメノカタ違ノ夜空蟬ノモトヘ小君ヲ以

《濱松物語今アリヤ曰ツイニミズアルナラン》

【三才】

云ヤルニ元ヨリ空蟬從又心故スグレヌト云テ中将ヘヤヘ入りカクレ居ル故ヲ出ナサレラレヌ故小君ソバニ置中川ノ宿ニコヨヒ御シンナル也空蟬ノ事心ニカ、ル故ネラレヌ也我ハ―是カラ源氏ノヲ詞小君ヘ被仰付也是ハ源氏ノ御自満ノ様ナレドモ是ハ小君小兒故小君ハカツテ被仰也我ハ此様ニ悪マル事ツイニナヒ也源氏ニナビカヌ女ナヒ也コヨヒ空蟬ニイトハレキラハル故ナンハ助字也コヨヒカラ世ノナカウイト知ル今迄從ヌ者ナヒ也ハヅカシハ空蟬ニ對シテミグルシフハイ隠レウト思ヒ又小君ノ心恥カシイ也我ハヨクウイト思故死ナント云ヲドス也泪―カナシウヲ笑止ナト云上(ウヘ)ニ左様ニ被仰故ニ其上(ウヘ)ニ涙ヲサヘハモノニソヘル也イト―小君ノ体也源氏ノヲ心ニ小君ダマサレカナシガルヲカハイラシト思召也テ―小君ヲソバニフセラセアルト帚木ノ末ニ書故イライテモミル也小君ガツムリイライ見ルニテサグリチヒサイ也カミノ―ハ空蟬事也唯今

【三ウ】

小君サグリミルニヤセ／＼トシテ空蟬ノカミニ似ル也是モナガカラザリシケハヒノサマニカヨヒタルト云ヨミモアルカヨウモ似ルコト也先ニカヨイヨイ也小君空蟬ニヨク似ル故其思ヒナシデ小君アイスル也アナカチニ強シヒテアチニカクレテ人大勢ソバニナルニ其事ニカ、ツテ也カ、ツライハカ、ツテ也タドリヨルハ部ヤヘタドル也人メハルフ外聞アシカラン也マメヤカハ実ニ也実ニ御立腹也メザマシウ御キゲンアシイ也例ハ小君アチコチ御ホン走スレドモレイノ様ニ小君ニモモノカズ被仰ヌ也夜一ヲ心止ルコトナヒ故夜フカウヲ帰也コノコハ一小君カ心ニハヲ笑止也源氏モサビシイ也源氏ノ御キゲンヨケレバウレシケレドモアシイ故ヲ笑止也女ノ空蟬モ返(カヘ)スハカヘセドモカタハラ一ハキノドク也ナミ／＼ナラヌハ源氏大体ナラヌ人ヲカ様ニカヘスハキノ毒也御一ヲ帰ナサレヲフミトウデモナヒ也オホン一其夜ノサマニ思召コリ

（○一丁ヲ覺シアカシツ、ノツ、ハ覺シニ付ヤ次第ニ明ケルノ心歎曰覺シツ、アカス也隔句也源氏ハ文ヲノバス也ソレ故め出也手キリ故也長ハカ、レヌ者ナリ）

（○カタハラハカタワラトヨムヤ曰然リ）

（○私考曰消息トハ安否善悪ヲヲトツレトウ意也続日本紀ニハアルカタチト和訓セリ事言要玄音問課之消息猶言安否善悪消々耗也息生息也）

【四オ】

モハヤ消ソクモナクフニコヌト思也ヤカテ一併(シカシナカラ)ヤガテハソノマ、也此マ、ニシテヲ志ヲモイヤト思召ハラタ立ト思召バ此マ、デ源氏ヲ引ナサレバソレハ空蟬貞節立ヲメニカ、ランハズナレドモ重テセウソクナク

バツラカラン貞節立レドモ源氏ノ事心ニカ、ル故ツラカラン也トハ思ドモシキテ一ハ源氏ノセツ／＼フミ被レ下テモヲ返事セヌ故セツ／＼フミ被レ下方(カタ)違トテヲ出ナサレンモウタテイ也空蟬カ心ハサスガイヤト思ドモタエルハツライ也セツ／＼コセウソク被レ下モツライ也ヨキ程一併ヨキ時分也是限デ思召止ハ幸ト思也トヂメハトゞメテ也モノカラハイツモノナガラ也ソウハ思ドモヨイ時分ト思ドモ我心ニ源氏思故ナカメハモノ思ヒガチ也君ハ一源氏ハ空蟬カシヤウ心ニツカヌ悪イシ様トハ思御*腹立ハスレドモカクノ如シテ絶テハエトマルマイ也ト角モ一タビハト思召也ト角ヲ心ニカ、リ人メ悪ウ外聞アシク思召空蟬ニツケテモ也小君ニ被仰ハイト一ツ

（○二丁ウ人ワロク抄説如何曰キラハレタヲ人目ハルウ思也外聞アシイ也抄ノモ通シテハユク也）

（○ツライノ訓如何曰シラズ）

【四ウ】

ライト空蟬ノ心ハツライ也ツライハムゴヒ也又空蟬ハ我心ニ悲也空蟬ツライト思我心モウイ事ト思故ドウモヤメラレヌ也苦一心ニ止ント思ドモ止メラレズクルシヒ程ニサリヌベキ一ハソウアリヌベイヨイ時節ヲ以也然ルベキ折ヲ見テ空蟬ニモ一ヘン逢様ニタバカルハ知謀メグラセ也タバカレニ非也ワタレハトハ段々月日ワタリヒタモノ被仰也小君心ニモ空蟬ノ方へ行テモ機嫌アシクウケ持テモスマヌ也トハアレドモ空蟬承知セネドモ源氏御キゲンアシイガツライ故カウシタ気ノ毒ナ事デモ源氏ノドウセヨカウセヨト云ガウレシイ也是ハカウシタ者也氣ニ入タイト思者ハナラヌ事頼テモ世話焼ミント云也カウアルベキ也ヲサナキ一小君オサナヒ心デドウシタ時節ヨカラント時節待ワタル也紀ノ守一テイ主ノ紀ノ守任国ニ下ル下レハ四年アト留主也アトハ女同士

(ドシ) 也男居テコソ人往来アリヤメタ故ニアト絶也タヤミノー七八日比カラ二三日比也月遅ク出也是モ「タヤミハ―見ント云

(○三丁ヲ下リナドシテ似_二衍字_一如何曰ノケテモヨイ様ナリ源氏ハノベテ書故ナラン外ニ物アレバヨシアマル様ニハ見エル也下ノ門(カド)ナドノナントモ同コト也文ヲノベテカク也)

【五オ】

万葉ノ古イ哥ノ詞ヲ用也タド_レシモタドルキミ也タヤミナレバフアン内故タドリ_レ行也我ノル車ニ源氏ノセキテハヒキキテ也ツレ立也此コモ―源氏ノヲ心ニ小君ツレ誘引シテユケドモ小君モオサナヒ故如何ト思也トハ思召ドモソコナダメアブナヒゾト云テエ扣又也空蟬ノ事思故ノドムハ心ノドカニナダメル也サリゲナキ―ソウアリゲナイ源氏デアリ公ナウスル也御(ヲ)供ナドナヒ也カド―初夜迄門サスマイ也タヤミノ道タトシキト云バクライ時分大門サハヌサキニ也人―人スクナケレバ本門ヨリ人ノ見ヌ静ナ処ヨリ引入也小君ハ児(コ)ドモ故カヘライデモ門番様ノ者内ノ君遣モヲ帰カト云様ニナリソコ_レニスル也ソレ故心安也コヨヒニシテハ大事也忍デヲ出故ハツハト家来迎ニ出テハ氣ノ毒ナレドモツイソウセヌ故心安ク入レ奉也南正面故東ノ方ノ小腋ノ方ノツマドノキハニ立ヲク也タテ_レマツルハ立奉リヲク也我ハ小君ハ南ノスミ也正面ノ腋也今モドルゾト云様ニ云入也ゴダチ―格子タ、キ明(アケ)テソコタテズニヲク也御達―女房達はアラハ也ト云也ナゾ―マダヨヒ

(○三丁ヲ我車私考曰車ハイロ_レアリ爰ニイヘル車ハ小君力乗タル手引ノ車ナルヘシ云々)

(○私考妻戸トハ遣戸(ヤリト)ニハアラデ左右二枚ノ戸ヲ各妻アハセニヒラキトツルヤウニシタルуйヘリ然レトモ或ハ一枚ヒラキニテ妻戸トイフモアル事也)

(○三丁ヲコトニミ入ハ如何曰コトニミ入レテツイソウセヌ也下ヘツク文ノブル故也ヤハリミ入レズノキミ也ツイソウハツイセウケイハクノツイソウ歟曰ツイセウ也セウモソウモ同コト也源氏ノヲクスマノ卷ニセウ徳敷太子ヲソウ徳太子ノトアル也セウトソウトハ漢ニテモ通ス莊(サウ)ハセウト通也)

【五ウ】

ニ殊ニ暑デアツイニナゾハカウ也ソコデ女房達ノヒルヨリ―サレバ其ギ也今晚西ノ御カタハ紀ノ守ノ妹ノ軒端(ノキバ)ノ萩也伊予ノカミノ女也源氏ヲ心カケル空蟬ノ為ニハマ、子(コ)也此部屋西ニ當ル故ソレヲ西ノ御方ト云也伊予ノカミ紀ノ守受領ノ留主故ケイ子ケイ母一処ニナルニ非ズヒロイ也打ゴ打テアル故ソコサシテアルト也サテハサラバ也サウアツテサラバ碁ヲ打テ向ヒヨルヲ見バヤト門ノツマドノキハニ立奉リテヲク処カラソロ_レ歩ミ出也ヤヲラハ和カ也ソロ_レアルク也スダレノ―ハザマハ物ノ間也小君ハ入時ニコ、ヲアゲサシテハ入ナリ小君ハ入事故格子ハ小マアケル也ソレ故其マダ東ノ方ニ格子ノコリアルソレトスダレトノ間ハザマ也格子ヲロセバスダレト引ツク様ニアル是ハ格子アケタスダレノハザマソコヘハ入テ向ヲノゾク也コノ―コチラハアゲシ処ノ格子トスダレトノ間ヘ入ル先ハアク故ニスキマミエ也西―東ノ方ノツマドカラ南ヘマワリ西ノ方ヘミルコノ―ソウタイ格子ノ内ニモ屏風几帳タテソトカラ見エニク

(○三丁ウハザマハ間也格子トスダレトノ間也「図一」スダレハ格子ノ内ニアルヤ曰外也格子ハ内ヘアゲル故ハジトミハ外ヘアゲル故スダレ内ヘカケル

也格子ハ一枚ノ者也下ヨリアケレハアガルサゲレバサガルナリアケレバアケ
通シ也

（○コノハ此敷子敷曰コトバノ此也）

（○三丁ウカウシタ、キノ、シリ私考曰カウシハ隔子也又格子トモシルセ
リ昼ハアケ夜ハオロス内外ノヘダテ也）

【六オ】

イ様ニスレドモ時節夏也チトデモサハリアレバ風コヌ故アケフル也スコシデ
モ風吹様ニハシ立アル屏風ハタ、マシテアリマギレルサハリニナル几帳モア
ツケレバ、几帳ハキヌ二重ニカケル者故打カケテハミルニハマギレミエヌア
ツイ時分故上ヘ打カケ衣桁ノ様ナニ懸ル也能ミエル也火―相碁ウチアル故ニ
火近トボシテ碁打キル也モヤノ―西方ノ格子トスダレトノ間ニアリ格子ノ方
ヘクビ出シテノゾク也アチハ西ノ縁ガハへ出テ碁打也夏ノ事故母ヤハ本ヤ也
ナカバシラハ中柱也縁ガハノソトノハソト柱也縁ガハトナカトノ間ニ立柱
也ソトノ柱ニ對シテ母屋ノ中ニアルヲナカバシラト云也ソバメル―柱ノキハ
ニ空蟬ノ碁打アル也ソバメルトハ西向未申ノ方ヘ向フル軒端ノ萩ソレニ向
テヲル也ソウナケレバ東南ノスミカラソバメル見エヌ也空蟬ハ中柱ヲ後ロニ
アテ未申ヘ向打フル源氏ハ辰巳ヨリミル也コキアヤハクレナキト云説アレド
モ紫也コキトアルガ処々ニアル或紫ヲモ或紅ヲモ云其餘ノ色ハコキト云又也
其外ハ

（○私考曰碁ハ囲碁ナリ）

（○モヤノモハ母敷曰然リヲモヤ也字ハ母也）

（○寺方ニテ見ヨ縁ニアル雨戸ニ柱アルソコハ板間ニシテアルソレト坐敷ト
ノ間ニ柱アルソレヲ中柱ト云也）

（○辰巳ヨリミル二人ハイヌイニナル也）
（○格子スタレノ方ハ南也東ヨリ入テ東ノ方ヨリミル也二人アチハ西北也）

【六ウ】

色サシアル也コキトハ紫ト紅ト也大_レ方十二八九ハ紫也コ、モ紫也二ツ重ネ
ルナレバヒトヘヲ二重ト云ベキ也ヒトヘ重ト云ガ名目也袖_レ口ヲ又ハズヒネ
リヌヒニシテ袷（アハセ）帷（カタビラ）ノ袖又ハヌ様也袖_レ口ヨリミレハ
二ノ様也外ハ縫テアル也夏故アツイアヤニ非ス、シノアヤ也ソレ紫ニシテ重
テヌウヲ着セル也女_レ中ノ衣装ハサマ／＼下ニキヌ其上ヒトヘ重着テ其上ニ
又ウハ着（ギ）ソウシテヒノ袴或唐衣（カラキヌ）其代（カハ）リニ小ウチ
キ着ル是ハコキ紫ノコイアヤノス、シノアヤノヒトヘガサネ着テアル也コキ
アヤノ―ナンメリハコキアヤノヒトヘガサネソウナガ但外ノモノカト見レド
モヤハリ此コキハ火デ明ニ見エル也ナニ、カ―マダ其上ニ何カキルコウチキ
敷表着（ウハキ）敷也軒端ノ萩客也軒端ノ萩モコウチキダツ者キル故ナンボ
母デモ先客故何ゾ取ツクライキルベキ也コキアヤノヒトヘ重ノ上ニコウチギ
ノ様ナ行義（ギヤウギ）ナ者キテアル敷也カシラツキ―空蟬ノヤウス也ヤセ
／＼トシテ身ノ少サヒ人也モノゲナキハヒハズニ少サヒ故物／＼シフナリヒ
ハズニ見エル

（○ヒトヘ重ハ単（ヒトヘ）ヲ二重ハ袷ナレトモソデグチハヌハヌナリ茶巾
ノ様ニヨリヌイ也）

（○何ニカアランハ此女中ノ打カケ也）

（○唐衣トスムヤ曰然リ）

（○アヤハキヌノ惣名敷但今ノアヤヲ云ヤ曰アヤ地也紋ハナシ今ノアヤ也ア
レ本式ノ者也今モ本式ニ非バ遣ズ）

（○私考曰コキアヤトハ濃・綾ナリ河海ニハ紅ノ濃色ト記シ花鳥ニハ紫ノ色
コキト定玉ヒシ又蘇芳テモコキ色アリ本文ノ心ニテ思ニ夜ノカイマミニテ専
ラ女ニ心ヲ付給ふ事ナレハ装束ハ大ヤウニ只コキトノミオホシメシツランイ
ツレトオシテ定メ難キカ）

【七オ】

カホナトハ―是ヨリオクニ（五丁ヲ）タトシヘナククチオホヒテサヤカニモ
ミセネド、アル左ノ手ヲ以口（クチ）グルメニ衣（キヌ）ヲサヘ右ノ手デ石
取ウツ也コ、ニカホナドハ―ト云ハオクデミエ口（クチ）ナドヲキヌグルメ
ヲサヘミヘル空蟬ノ心遣軒端ヨリ身ダシナミヨクシタ人也手―手モ元ヨリヤ
セアル小サヒ人故ニ也碁打ハ手出ルハヅナレドモ手チト出ル様ニシテアル是
空蟬身持ノ平生ノタシナミ也今―空蟬ガ東ノ方ヘムキ相手ニシテ打也白キ―
軒端ノ荻ノ装束ハ空蟬ハ紫也軒端ノ荻ハ白キヒトヘ重也ウスモノモロ紗ノ類
也二藍ノ事ハ紅（ベニ）ト藍花トデ染ル也紅（ベニ）ハクレノアヒ也呉国ノ
アヒ也アヒニ色デ染ル故ニアキト云今ノ桔梗ゾメ也コウチキ―下（シタ）ニ
衣（キヌ）其上ニ一重（ヒトヘガサネ）着其上ニ上（ウハ）着ヲキ其上ニ
小ウチキ着也コウチキノ代（カハリ）ニ唐衣（カラキヌ）也唐衣ハ男（ヲ
トコ）ノ束帯ノ様也其次ノ衣冠ハ表着（ウハギ）ノ上ニコウヂキル也是行（ギ
ヤウ）義也今晚客ニクル故ニ軒端ノ荻行義ナ者キテクル俗デ云バ浅（アサ）
上下ハ束帯其次

（○私考曰一重カサネハ五月五日ヨリ着用ノヨシ装束ノ諸抄ニ見エタリス、
シノ単フタツヲヒネリ重タルヲヒトヘカサネトイフ）

（○私考曰二藍ハ赤ハ紅花青ハ鴨頭草（ツキグサ）各藍（アイ）ノ名アル故
二藍ト云其色大概ウス紫故ニ藍紫トモ云ト三条装束抄ニ見エタリ小褂ハ唐衣

ノ代ニ表着ノ上ニキルモノ也長サ小袖トヒトシ着重ル次第単（ヒトヘ）ノ
上ニ・衣（キヌ）・打キヌ・表着・小褂トキル寸法ハ上ニキルヲ次第第二ヲメ
ラカスヨシ見エタリ云々）

【七ウ】

ハ裏附上下（ウラツケガミシモ）キル様也スレバ空蟬モ此キヌキルハツ也
コキアヤノ単（ヒトヘ）一重其上ニウハギキルト云ネバツリ合又也ダツモソ
ウナ也◇（小ウチキソウナ者キテアル也）ナヒガシローハ軒端ノ荻ノテイモ
ノ取ツクラハンテイ也ナイガシロモ和訓ハナイガチ也シロハ付字也ガシハガ
チ也クレナキノ―カノ単重ノ上ニ紅ノ赤袴（アカイハカマ）キル是女中ノ
常也ハカマキルヲクレナキノハカマト云ズコシト云也アツイ時分故胸ハ取出
也袴ノ腰ノキハ迄胸取出シタハ婦人ニシテハフタシナミナシ様也タレ見ンヤ
ラ知レヌ也コヨヒ源氏ノゾク様也男子デ云バ独ヲ慎也屋漏ニモハヂスト云様
也バウゾク―傍（バウ）モカタハラ側（ゾク）モカタハラ也ウヘニキル者カ
タハラヘヲシヤル上ノ小ウチキ立モノマズグニキヌ也又バウハアク也ゾクハ
ワル也アキタルフウキナ体也奢タテイ也両説也イト―軒端ノ荻色白フヲカシ
ゲニツンボリト能フトリアリ色モ白也ソバロカハ抄ニモスルド、書セノ高ノ
ナリ俗ニセ高人ヲゾ、口長ト云其申ミ也クビヨクフトリセ高クアタマツキ額
（ヒタイ）

（○ナイガチハ如何曰アルカ無カトセンギシテミレハ無ガチ也無ガシロニス
ル也無ガシロト云ナヒガチ也シトチトハ通イキシチニ也ロハ付字也）

（○腰ヒキユヘルハ男子ノ袴ノヒボ結ヤウナルヤ曰クレナキノコシハヒノハ
カマ也コウチキヌ又ギ置テコシノヒノ袴ノソバ迄ヌゲル様ニキテアル也ヒキ
ユヘルハ結也コシラムスブ也）

【八才】

ツキハツキリトシテ色^レ白髪黒故ハツキリト見ユマハ目也^レミハミルメ付口付
イトーアイソウラシイ也ギヤウハカタチ也花ヤカナ立派ナテイ也殘処ナフカ
ハイラシウモアルテイ也カミハフツサリトアルソレ程長ハナヒ也スベラカシ
ニシテアル故ヨクミエルサガリハーサゲガミハサガリアルバハ様也サガリ様
ヨイ也◇(風ゾクノ哥也大哥処也)古今ニ水クキノ岡ノヤ方ノーシモノフリ
ハモト云様也霜ノフリヤウガト云様也此モ髪ノサガリ様ガ也元ヨリ白キモノ
キフル上ハバウゾクニナヒガシロニキテアル上ハ白モノキルニ黒髪カヽル
也スベテノ体ガネヂケハネヂレル也ドコーツアシイ処ナクオカシゲナルー宜
フ見(ミエ)タ也ムベコソー源氏ノ思召ハ尤ジヤ平生父伊予ノ頭ヨイト云ハ
也父平生女宜トモノ語スルト見ユオカシクー宜フ思召也心チゾーソウタイア
ザヤカニネヂケタル処ナクー生付ナレドモチツト心静ニシテヤリタイ也空蟬
ニ對シテハサハガシイ様也フツト見レバソフミエル一角(ヒトカド)アル
ハカル也ナヒニ非也碁ーコ打テ打アフタ也ケチハダメ

〈○サガリバト濁ヤ曰然リ今日見バガヨイト云様也見タ処ガサガリ様ガヨイ
也〉

〈○古今ノ哥ノヨミハフリワモトヨメドモフリバ也同コト也霜ノフリ様ガ也〉

【八ウ】

ノ事也抄ニ文字(モヂ)ニイロ出ス結ト闕ト書ト出闕(カケ)ハ石両方カケ
テアル故カケ也結ハ結ビアハス也ドチデモダメノギ也心ーソウ明ニ見エル也
キハ／＼ーキハ／＼シウ際(キワ)立サウドケハイソガシイキミ也ソウハ早
(ハヤイ)也俗ニ云イソガシイヲサウ／＼(シ)シイト云サハガシイ也オク
ノ人ハー軒端ノ荻ハ西ノ縁ガハニナルコチラハ奥ノ柱ノ方ニナル同ジ間ナレ

ドモ奥也コチラハ静ニノドヤカニシテアチハサバ／＼云故待玉ヘヤソコハ
ヂハ両説也一ハ地(シ)也一説ハモチアフキミ哥合モセウブナヒヲ持ト云タ
イダイ也コウハノコル者也一目(モク)ニ目ノコウ也ツメウト空蟬云ヘド
モ軒端ノ荻ノイデーイデハ発語也私マケ也作ルニ及ネドモ也スミノーマケト
云ツ、軒端ノ荻イデ／＼トーヲヨビハ唯指ノ事也ソウタイ指ノ事ヲヨビト
云前ニモヲ指(ユビ)ヨクヒキルトアル伊物ニヲヨビノ血シテ書附ケリ
トアルヲ指ト云バ小ノキミデモアランヲ指カバメテーハ目算スル也伊予ノ
伊予

〈○ワタリトヨムヤ曰然リワタリトヨミアタリ也ドコモ同事也〉

【九才】

ノ湯ゲタ多アル故シレニクイ也古イ哥ニ「伊予ノ湯ノ湯ゲタノー中八十六ト
カゾヘ卅三トツイハイ、ニクイ事ヲ伊予ノ湯ゲタモタドル事ニ非早三十三ト
シル様也聡明ニミエル也是軒端ノ荻ノ父ガ伊予ヘイテアル故伊予ノ湯ゲタヲ
出ス文ノ上手見ヨ取合セヨイ也聡明ニ見エレドモアマレソウ動スル故空蟬ニ
クラベテハ品(シナ)ヲトル也タトシヘナクー是カラ空蟬ノヤウス也◇(四
丁ヲ)前ニ顔ナドハサシムカヒタラン人ナドニモワザトミユマジウモテナシ
タリト云是也タトシヘナリー隠ス也タトシヘノシハ助字也顔ツキロクニミラ
レヌ也メヲシノシハ付字也源氏ノ空蟬ミント空蟬ノ方ヘ目ヲズツト付也自
シゼンニソバメハ脇カラミエル也メーチト云バ額(ヒタイ)出ビタイ也ソコ
ヲハレト云目(マ)ブチ高キミ也マブチ高(タカ)ケレバ腫タ様也晴(ハレ)
タルノ説モアル也鼻ーハナモ其様ニ高ニナヒ也アザヤカハ高也アザヤカナル
処ナフナレバ高(タカウ)ナヒ也ネビレハ抄ニネ

（○タトヘナリハ全タイヲホムルヤ曰タトシヘナク也シハ付字也タトヘ也タトヘラレヌ程キツウロヲ、ウ也文ノベル也）

【九ウ】

オビレタル顔ノ様也トアレドモ年高フヲネビレト此物語ニ書也俗ニモヒネルト云也軒端ノ萩ヨリ年ヒネル也ニホジキ―ウルハシイ様ニモ見エヌ也云立ミレバ目ハ腫マブタ也鼻ハ小サイ也ハルイ方也ヨイ処ハナヒ也軒端ノ萩ヨリキリヤウ落タレドモキツウニヤウス付自身ニタシナミスル也モテハ助字也キリヤウマサル軒ヨリハ心―アノ取ツクロイ様デハ心モサゾウルハシカラント思也ニギハ、シク―是カラ軒端ノ萩ノ体也ニギハ、シクハ早（ソウ）ドキ也ハカリ聡明ナ故也アイ形ヅキハカアイラシイ也オカシゲナルハホメル宜也下地ニギハシイヲアタリニ人ナヒト思故物ヲモ云タイ様ニ云也打トケ云也ソホ（ヲ）ルハザレタハムレル也匂―ソレカラヨイト見ルメカラハソレガ猶ヨイ也サル方ニ―其ニギハシイ方ヘ付（ツケ）テハイト面白風流ナ人ザマナリアハツケシトハ―此アハツケシガ軒端ノ萩ガ容スソウドキ故アハツケシトミレドモト云ドモソノ説アシイ也源氏ノヲノシノ心也空蟬ニ心カケクル也今

【一〇オ】

夜軒端ノ萩初テ見ルソレニハヤヲ心ツクハアハツケイ也実貞ニナヒ好色ノ心故是モハ空蟬ハ勿論是モイヤトハ思召ヌ也見給―今迄源氏見ル好色ノヲ相手ノ婦人也源氏ニ相手ニナル女今夜ノ様ニシテ見ルハ一人モ無也取ツクロイモノカズ云ズモノタシナミシテ源氏ヲマ正面ニ向ズ源氏シツシウヤマウ也ウハベ迄見セソコノヤウス見セヌ也カク―カクノ如ク軒端ノ萩ノ生付ノ上ニアタリニ人ナヒト尋シテウチトケタル也ソレヲ源氏ノカイマミハツイ（ノゾ）ク事也カウシテ打トケタ人ヲ源氏ノヲ若イ貴人ナレバ猶ヲ以見ヌ也何心―ハ

軒端ノ萩ガ何心モナフタレヲルトモシラズサヤカハハツキリトシタ事也笑止ナ事ナレドモ久フ軒端ノ萩ノヤウス見タイ也見―ホシキニ也スミテヨイ也見テアル中ニ小君出クル也ヤヲ―元ノ処小君ヲク処へ出ヲル也ワタドノ―ワタリドノ也廊下也廊下へハ入戸口ニジツトシテアル小君ノ心ニサテモアソクニ

【一〇ウ】

宵カラゴザルカト笑止也レイナラヌ―小君云ハ例―軒端ノ萩源氏シラヌカトテ客アツテ碁打テアル故私モソバヘエ行ヌナリサテ―コヨヒモ我ヲムダニカヘスカ也イト―ソレハイヤナ浅マシウクルシカラン事也迷惑ナ事ジヤト被仰也ナトテカ―小君返答ニナニトテカコヨヒハ是非ヲ逢ナサル様ニセント也アナタニ―軒端ノ萩アナタノ方ノ部屋ヘカヘラバ思慮メグラシテミン也サモ―源氏ノヲ心ニサモ云テイ、ヲトサンケ色也源氏ノヲ心ニ小兒ナガラモノノ人ノ目色ヲ見是ハナルベイ筋ジヤナラヌト云事能ミル也物―ハ善悪ノ事大概合点シタ也人ノ―ハ人ノ色メミル也シヅマレルハノツシリトシテ生付ト思召也碁―碁打スミタカシテ女中方サハグ也アガル、ハ別（ワカ）ル、也アトワト五音通ズ退散ヲドコデモアガル、ト云也ワカル、カラ出ル訓也必竟退散ノキミ也若君―モハヤネルガコノ

（○コヨヒモヤノヤハ疑歎曰然リ疑也前モ不首尾也コヨヒモヤイナスヤ也）

【一一オ】

小君ハドコヘヲ出ゾト云也先程小君初テハ入格子アケアルモハヤ此格子タラントナラ（シテ）小君ニ聞ヌ也源氏ノ被仰ハヤ、方人シヅマルソウ也中へ入テタバカレ也小君ガ心ニモ妹ハアネノ事也空蟬ノ事也タハムハ中々小君ガ

ナビカシテモナビカン事也マメダチハジチメニナリアルイテ相談ナラヌ也人
 一是小君ガ知恵也小君ガブンデハ承知セヌ故相對(アイタイ)ニセウトテ我
 (ワレ)カモハズ入(イ)レテミル也キノ守一源氏ハノゾイテ軒端ノ萩ヲル
 ヲシル故シラヌ顔デ我ニチトノゾカシテクレヨ也イカテカ一ソレハドウモソ
 ウハナルマイ也格子一格子ノ内ニマダ几帳ソヘアル故中々ノゾカレマイ也サ
 カシ一源氏ノソウデアランサレドソレハノゾイタト思也ミツ一我(ワガ)ノ
 ゴイタトハ小君ニハシラセマイ也我ノゾイタト云モ軒端ノ萩バウゾクニシテ
 アルヲ小君ニ對シテ氣ノ毒也ト角云中ニ夜フクル也ハヤウセヨ也此タビネル
 事故今ネルト戸ヲタハキ云入レル也ツマ戸一此事サキニ見ユ内ヘアケテアル
 也

〔一〇七丁〕ヲイトオシハ軒端ノ萩ニカ、ルヤ曰軒端ヘカ、ル其方ソフ云ヘドモ
 コチハ見タミツトハシラセジカイトオシ也打トケテヲル故笑止也〕

〔一〇八丁〕ツマ戸前ノ入処ト異ヤ曰格子ハ表ニ一面アル也妻戸ハ腋ノカゲニアル也
 我入処也〕

〔一〇九丁〕ヒロゲテハ如何下ニ火明一トアレハ戸屏風立テ、カタハラヘヨセノ無如
 何曰屏風自由ニスルハタハマネハナラヌ故也〕

【一一一ウ】

皆人一人々々タ也此一此カラ紙ノクチニ冷(スバ)シイ様ニネント也丸ハナ
 シ女トモニ丸々ト云大人小兒トモ云也夏故風吹様ニトテ也屏風立テ、カタワ
 ラヘヨセヲク也女房達アマタル故ネテアルベシ也テ、アガタニナル也戸一先
 程此カカウシ小サシオシ(タヒハツマ戸ヲタハキテ)イルト云其戸也ハナチ
 ツルハ戸アケタ事也東方ノゴタチヲル方ヘイテネル也トバカリハスコシバカ
 リ也小君ネヌ也源氏マタシテアル故ネヌ也源氏忍ヌ心故火ノアル方ヘヤル也

ヤヲラーソロリト源氏内ヘカウシノ内ヘ入レル也イカニゾ一是ハイカニモ愚
 痴ガマシイヒヨシナ事出来マイカ也トハ心アマルト也◇(コトモ)アランズ
 レド也我モヒキ心也導一導マ、ニハ小君導マ、ニ也母屋(モヤ)ハ本ヤ也カ
 タビラ引アゲ空蟬軒端ノ萩兩人ネタ処ヘツ、ト行也

七丁ウ 十二月十一日會

○みなしづまれる一ヤヲラ入レ奉る一小君(一)カ何分ニ一カニユカヌ事

〔一一〇丁〕トバカリノトノ心如何曰訓不知ザツト也卒ト也品定ニトバカリ月ヲ見テ
 ト木枯ノ女ノ処ニアル少バカリ月ミル也〕

〔一一一丁〕ヲコノ訓如何曰覺ヲル今忘レタリ愚チナ事也ナラヌ事ヲスル愚痴ナ事也
 ソレシテテガラニスルコト也〕

【一二一オ】

故直ニ源氏相對ニト尋シテ入レタ也源氏ノイカニゾカウハクル者ノオコカマ
 シキハ愚痴ガマシキ也ヲコハ皆愚痴ナ事也スマジイ事シテ愚痴ニナル事ヲ皆
 ヲコノト遣アル出スギテシソコナフ事愚痴ガマシフナルヲ云也イトツ、マ
 シケレドハジツト退心也導一小君導故母屋ノ一兩人ゴ打テアル本屋ノカタ
 ビラハ幕(マクノ)類也衣桁ノヤウナニ懸タキヌ也帷幕(バク)ノ帷故カタ
 ビラ也ヤヲラソロリト和カニヲ入ナサルトスレド皆人々シヅマリ世間モノ静
 ニシテナンラノ音モヤメフル時分也和一元ヨリ人ニタレトモシラセヌ様ニヲ
 出ナレドモケツカウナ者キズ和ナ音セヌ者キル也和ナ者デモセ間シヅマル故
 ドノ様ナ和デモ音聞フル也ゾ、ハキヌ也シ、モニカラアル和ナサヘ著(イチシル)
 シフシレル也女一此比中将消ソコモナフ文(フミ)モコヌ故モハヤヲ忘被成
 ト尋ズルヨキ程ニ思ヒトゲテ前ニモアルナリ怪一貞節ノ空蟬故源氏ノ思召
 絶ルハ珍重ト思ドモ源氏

【一二ウ】

思ヒ奉事ヤマヌ故一夜方違ニ源氏ニ夢ノ様ニシテ逢奉ル也此ニテ久シキ也ト
 角^非(エ)忘レヌ此比也心トカク源氏ノ事心ニエ忘レヌ故心トケル事ナヒ
 也心エホドケヌ也イモネモ同ジネル也ヨフネルヲイネノヨイハルイト云也イ
 ダニネラレズトイヘドモイデネル事也ソレニ二分ルブンノ事也昼ハモノ思シ
 夜(ヨル)ハネイラヌ也源氏ノ事思ヒネヲドロキガチ也春古歌アル「ヨル
 ハサメヒルハナガメニクラサレテ春ハコノメモイトナカリケルト云古イ歌ア
 ル其詞デカク也ヒルハ詠テモノ思ヒスル故ウツカリトモノ見ヤリアルヨルハ
 ネ覚テ目ノヒマナイ也春ハ木ノコノメモイトマナフ出テクル是ハ春テナケレ
 ハ本歌ハ木ノ目(芽)ナレドモ此ニ取用ルハ此目ト取也目ニイトマナイ也イ
 トナクハイトマナク也ゴ打空蟬ヒルハ思ヒヨルハネラレヌ事也紀ノ守ルス
 サビシイ故マ、女トゴ打也コヨヒハコ、ニトイマメカシフハ風流ニメヅラシ
 ウ軒端ノ荻ト一処ニネル也若キ人ハ一

【一三オ】

軒端ノ荻何ノ思ヒ入レナヒ故ニ能ネル也カ、ルコ、ガ隔句アル初ニ皆シヅ
 マレル夜ノ御ゾノケハヒ和カナルシモイトシルカリケリソコカラ此ヘクル也
 シルカリケリカ、ルケハヒノ也ナカハ隔句也和ナキヌサへ人シヅマル故苦也
 ソフシテミケハイノイトシルウ打句フニ源氏ノタキシメル香ノ句也句スル故
 繁キ空蟬カホヲ持アゲル也ヒトへネル時分故几帳ノカタビラヲロシテアル
 ナンボクラウテモ人アルケハイニスル也サマアル少シ明(アイ)タ処モアル者
 也クラケレド火ハ木ノグラウシテアレドモミジロキハ註ニモ身退ト書モノ
 ニサハラヌ様ニシテ往故ニ身ハ退様也サハラヌ様ニシテ也イトシルシハカク
 レナイ也空蟬覚アル故イト著(イチシ)ルイ也外ニナイ也又空蟬是ハヒヨ

ナ事ト思也ドウセウカウセウト思慮ナラヌ急ナ事也ソコデニゲ出也和ニソロ
 リト源氏ノ方へ聞エヌ様ニ出夏ノ事故ニスバシ一重キテアルス、シナルモス
 バシニテ

【一三ウ】

アル也是両説也ス、シヲ置テト又ス、シヲ著(キ)テト両説也師説ハ置(ヲ
 キ)テ也ナル程置テモ面白也ヒトヘヒトツヲキテト云ハ下ニナニ置タヤラシ
 レヌ故ニス、シナルヒトヘヒトツ置テト云ハレタレドモ此ニス、シナルヒト
 ヘトアル先ニ源氏ノ取カフルヲウスモノ、小ウチギトアル也スバシトコウチ
 キト違也下(シタ)ニ◇(スバシ)キテ上(ウヘ)ニ小ウチキキル夏デモ冬
 デモウチカケノ様ニシタ者也ソレヲキテネルカマ、ニス、シナルヒトヘトア
 ル先ニ小ウチキトアレバヤハリス、シナルヒトヘヒトツヲ著(キテ)ヨカラ
 シ置テト云テハ先ノ小ウチキト云ト此ヲクナトアハヌ也スベリスリヌケタ
 也君ハ一ソコデ源氏ハソコヘヲ出テアルニ軒端ノ荻一人ネル障(サハリ)ナ
 イト思召也床ノ寝間(ネマ)ノ次ノ間也ユカハネマ也下ハ次ノ間也軒端ノ
 荻キルキヌ推ノケソバヘヨル也前ノ空蟬ガ手サハリヨリフトイ也元ヨリフト
 イ也◇(四丁ウ)ツブ／＼トコエテアルモノ／＼シフハフトルキミ也モノ
 〳〵シウフ

○兼道按八丁ヲす、しなるひとへひとつをきてすべり出にけりとは凡さ
 うそく着かさぬる次第・下にひとへの上に衣(キヌ)・きぬの上に打きぬ・
 うちきぬの上に表着うはきぬの上に小褂(コウチキ)をきる也されハ下のひ
 とへのきぬ斗着てすへり出也十丁ヲにかのぬぎすべしたるうすきぬを取てい
 で給ひぬと云ハ下着敷上着敷しれぬども十一丁ニありつるこうちきをさすが
 に御ぞのしたに引れてとあれはうすきぬと前にあるは小褂と聞ゆる也

【一四才】

トウ思ドモヨモヤ軒端ノ萩トシラヌ也ノキバノ萩トマルトハ源氏シラヌ也イ
 ギタナキ―ネゴイ事也ネルニキタナイ也中ノ空蟬ハコノ様ニナイ也其俣ヲ
 ドロク平生タシナミナイ也空蟬トカハルト此デ初テシル也ヤウノ―是ハ空
 蟬ニ非スヨイノマ、女メトシルアサマシフ―是ハ氣ノ毒ト心痛メラレ空蟬ニ
 怨心アル也人―軒バノ萩目サマシテアル故人違トノキバノ萩ニ思ハレンモタ
 ドルハ迷也アホウラシイ也軒ハノ萩ノ心ニドウシテ空蟬ノ方ヘクルトアヤサ
 (シ) ムベキ也ホイノ人―本意ノ空蟬ノ方ヘ尋ユカンモドコヘ逃行ヤ知レヌ
 也カクバカリニゲル心アルメレバ也カイナク―尋タカイナク却尋マハラバ愚
 痴ニ思ハン也此モ隔句也ホイノ人ヲ尋ネヨランモカヒナク也ソレハナゼナレ
 バカバカリノガル、心アンメレバ也カノオカシ―ソコデ源氏ノ元ヨリ人違ト
 ハ見セマイト思召ニゴ打時ニノゾキ見テアルスベテ

【一四ウ】

ネジケタル処ナイトアル一体ヨイ也オカシハホメル也ホカゲハ火カゲデ見ル
 也ソレハドウセンゾヨイコノ軒端ノ萩ニネンカト也是ハ悪イヲ心ト作者ノ
 地也アサ、ハアサイ也空蟬ニゴザリ軒バノ萩トウセウト思召ハ悪イ心ト也軒
 ハノ萩久源氏ゴザル也オボエズハ思モカケヌ也アキレハテタ也何ノ―目覚タ
 処方何ノ空蟬ノ様ナ何ノ用意タシナミモエセヌ也空蟬ノ様ニ用意セズ笑止也
 身嗜心遣モエセヌハ笑止也(ナ) イトヲシキ也ナンノ用意心遣モエセヌ也
 世ノ中―マダ又世ノ中ノ夫(ヲツト) ニマジハラヌヨリハ少シシヤレテモア
 ル也ザレバ、ハシヤレタキミ也ナニモ知ヌ様デモイキスギテアル也中々幼
 (ヲサナイ) 様ニビクノシモセヌ也我―ソコデ源氏ノ我トハシラセマイト
 思召ドモイカニシテ―源氏ノ我ト名乗ズ軒バノ萩ニアヘバドウシタ理屈デ我

ニ逢ヤラ空蟬ヘキタ人ガ我ニアフ人違ト思テハスマヌト思故ドウシタ事デカ
 ウアルゾト軒ハノ萩

【一五才】

ノ思ヒメクラシ思案スルモ我ハ名乗ヌ故カモハンナレドモアノ―アノハ空
 蟬ヲ指也アノモカノト同コト也アトカト五音通故アト云也世ノナカツ、ムハ
 ズ也人ノ妻故コヨイ逃ヌハニクケレドモサスガニ空蟬フビンニ思也タビノ
 ノ―ソコデ軒バノ萩ヘ被仰ハ我タビノカタ違(タカイ) ニクルハ其方ニ心
 アル故トダマス也イト―弁舌宜フ被仰也タドラシ人ハ―ソコデ年ヨル人ナレ
 バタドルハ思慮分別シテ思テミル人ハソノマ、空蟬ヘヲ出トシランナレドモ
 マダ軒ハノ萩ハイト若イ上ニサコソチト出スキバチノト宵ニ咄(ハナシ)
 タレドモチトヲトナシ様ナレドモマダ夫(ヲツト) 杯ノソバデモノ直ニ
 云コトナクカウシタメニアフ事ナヒ故空蟬ヘヲ出我ヘヲ出トワカラヌ也ニク
 シ―軒ハノ萩イヤトハ思ヌ也元ヨリ御本意空蟬ノ事故コヨイ軒ハノ萩ヘヲ心
 トマラン様ナイ也猶―軒ハノ萩ヘヲ逢ナサレタレドモ空蟬ニゲタライミジウ
 キツイシ様ト思也イツコニ―

ヘ○九丁ヲ右コトニモアラネドノ事ハ何事モ非ヤ曰処ニヨリ違事ニモ非云ケ
 シテト云ハナンノソレガナニ事デ物ノカズデモナイト云様也

【一五ウ】

ドコヘハイカバシテイテ我ヲグハン愚ナシ様ト思居デアランカク―シウ心深
 イ也情ゴハイガシウネキ也此様ナ人ハアリニクイ者也我此様ニ心尽ニ情コハ
 イ人◇(ト) 也アリニクイ者也ソフカタゼウ者ト思召様ナヲ慕ガアヤニク也
 アヤニクハスリ違ユク也情ゴハナト思召ハソレデ止ベキニソレ程ナヲ慕ガア

ヤニク也此人ノ一軒バノ萩ノ何ノ用意モナクソレモイタハシウ思召ヲノシノ
心止リサスガニ一空蟬ノ事思召故強テヲ心止ラネドモワカヤカナルケハヒモ
アハレナレバサスガニ一ナサケノシウ契置ヲ重テアハン文通センナド被仰
也人一人知テ媒(ナカタチ)類ノ或ハ親シルノト云ヨリカ様ニ密ノ二逢ハ
互ニ忘レン切ナ者デ親ユルシ人知ルヨリフカイト云也コノ昔ノ人タレドモシ
レヌ也源氏コシラヘ軒バノ萩ヲボコナ故ニカウシタ事云人アルト被仰コレヨ
イ也我思ハン其方モ我ヲ思テクレヨ也我モ世ヲハバカル身也我身ナガラ我心
ニ

【一六オ】

マカセラレヌ事也タビノモエクマイ也又一又我心ガ我身ナガラ又其方ノ親
タチモ我ニハクレマイ也カネテ胸イタイ也親ニ云テ見テモクレマイ故カネテ
ムネイタメル也カウシタ事忘レズ待テ此方カラ通路セント也ナヲノシフハ
マツ直ニ也年若ナ軒バノ萩故マク直ニカザリナフ被仰チヨクノ字ノ心也人
ソコデ軒ハノ萩ノ返答ニカウシタ事人ノ承リ思事ハズカシイ故此方カラハエ
書通モスマイ也ウラモナフ一ウラ表モナフ遠慮會積ナクズウノト云テシマ
ウ也ナベテ一源氏ノソウデナイ人ニヲシナベ云事ニ非恥カシイ事ナイ也此召
ツレタウヘ人ハ殿上人ノ事也前ニモ上(ウヘ)ニモ我奉ラントアル殿上源氏
ノ被仰付ワラハ殿上シテアル也此方カラフミモヤラレズコトツテセント也ケ
シキモ一カウシタケ色モナイ様ニシテヨレ也カノ一カノ空蟬ヌギスベシウス
ギヌ也ウスギヌハ夏ハヒトヘデモ小ウチ

【一六ウ】

キデモ皆スバシ類也アヤデモスシ也此ウスキヌハカノヒトヘノ方ヘ云テモ
小ウチキノ方ヘ云テモ此デハ聞エル也小君一ソコデ小君ガ源氏ノヲ出ナサル

アトニアレドモフサズアル也空蟬ハ心元ナフドウナサルト思故ニ中々ネ入ラ
ン也ツイメサマス也小君戸ソロリトアケ源氏ソトヘ出也老タル一オクノ方カ
ラ老人ノ女ノ声デ戸アケルハタレゾト云也ビツクリトスル程故コチハ忍ビ出
ルニアチヨリキテハナラン故我ジヤ苦シフナヒト云也丸ハ古ハ我コトヲ大人
モ小児モヲトナモ女モ我事ヲ丸ノト云也此夜ノ中ニドコヘ行ト問也サカシ
ガリハカシコダテ賢ノ字ヨム也カシコダテ云テクル也トサマハ外サマ也源氏
ヤ小君ノクル方ヘ縁ノ方ヘクル也小君ガ心ニハテニクイ事ジヤツライ事ト思
也アラズハハテナンデモナイト云也ソチヘ行(ユケ)ノキミ也今モ云コト也
コモトヘ一小用ニ出ル様ニ云也ソフ云サマニ源氏ヲハヤウ戸ノソトヘ出ス
也

〔一七オ〕
暁一東ノハテト南ヘ入テモ東ヨリ此タビ出故月ハ東ニアル故ニ内カラソレミ
テハツイ源氏ミエル也小君ガ源氏ツキ出故ニ也其モ一人ハタレゾト老人トウ
也タソト問テヲキ其返事キカズ民部ノヲモトソウナト云也民部ノヲモトモ空
蟬ニ仕ル女房衆也ナンゾノ返答聞ズ是モアルコト也老女ナドガ我問テヲキ返
答キカズ云事也ケシウハ一アヤシウハナヒ不審タ、ズアノ様ナ背ノ高イ人ハ
マギレナイ也タケダチハセイノ事也タケ高人ノ一民部ノオモトハ平生セイ高
イ者也花色アイミル茶黒センサイ茶杯ニシテヨイ也
〔一七ウ〕
〔一七オ〕
〔一七ウ〕

ト云テ笑ハレタ也ヲモトハヲモト人也◇(ケシウハアラヌト老女(ハヅ)云ハ)平生セ高ト云テ笑ヲマギレモナイヲモト、云ト也老人―老女(ハヅ)思様ニハ小君ガ民部ノヲモトツレテ小用ニデモ出ルト思也今唯今―小君ハ小児ナレドモ追付民部ノヲモトノセ程ニナラント云ツ、我モ出テクル也是モ小用ノ様也ワヒシケレト―源氏ノ去キノトクナ事ナレドモソチヘユケト云レヌ也ナシラノ用アルヤ知レヌ也

〈○同いとにくゝて 秘小君か心也 箋同〉

〈○同あらず くるしくもあらずと答る也 箋同花同〉

〈○私考曰みんふハ女ノヨヒ名ナリ御許(ヲモト)ハ近侍スル人也〉

【一七ウ】

先シバラク月ノ陰(カゲ)ヘヨルワタドノハワタドノロウカト前ニアルヤ此―老女(ハヅ)ソコヘクル也コナタハウヘニ北ノ方ノソバニアルカ也オト、ヒ―私ハオトツイカラ腹イタミイトセン方ナク難義デ下(シモ)ノ部屋ヘハ入テアル上(ウヘ)ニ人少ナヒトテ腹コハリ乍召故ニヨンベ―召シタ故ニユウベハラ痛タレドモ召故ニマフハ参リ昇ル也下ニアルト云故主人ノ前故参リ上ルサレドモソレトモトカク腹コハル也イラヘ―ト源氏ニ云カケ置テ返事モ聞ズソウ云ステヲイテアハア、ナア也又腹痛トソコヲハヤウノク也早ネント云也カラウシテヤウ、源氏ノカラキ命助カリ出也猶―前ニモ空蟬ノ事ニおほしこりにけるとアルソレ承テカウシタルキハキ人ノセヌ事ト也是ハ危コトジヤト也是ヲ戒也此デ老女(ハヅ)腹コハラズ源氏トシル也紀ノ守ルヌ也是ヲ戒メン為ニ面白カキナシテ戒也ソレヲスキ、シフ見テハ源氏ミルニ非ズ法花ニ轉シラル習ヲ以ミルトハ

〈○入楚云今聞えん 今又やかてなと云心也〉

【一八オ】

是也小君召ツレラレ小君車デニ条院ヘカヘル也アリサマ―カノ空蟬カクレル様ス小君ヘ被仰聞也其方年ユカヌシ様アシイ故此(カウシタ)事ト也アバメタマヒハアハ、シイト被仰ヲシカリナサルカノ人ノ―爪―ハラミフカイ体也空蟬ムゴイシ様ト云也イト―源氏ヲ笑止サニモノモ云ヌ也イト―是モ両説也源氏ノ小君ヘ被仰詞也空蟬ノイカウ源ヲフカウ悪バ身モ―我身モウク無(ナヒ)モノニセント思ト被仰ト一説ハ小君カ詞ニ空蟬ノシ様ヲ源氏ノイト深ウ悪タマフ故我身モトモニウイ也ヤハリ是ハ源氏カヨカランナトカ―小君ヘ被仰也タトヘバニゲカクレセントモナツカシイ和ナ返事スマイ者ニ非ト也伊予ノ―我ハ伊予ノカミニヲトリ空蟬ニキラハレ残念ナト小君ヲドシテ被仰也ヲトリケル身コソウケレト心アマス也心ヅキ―ハ空蟬心ニツカンワルイシ様ト思也アリツル―是デ見ヨ先ニ◇(八丁ヲ)ス、シナルヒトヘヒトツヲキテスベリ出ニケリトアルヒトツヲ置

〈○入楚云車ハ後の方をよせて乗るに先に乗たる者はしの方に乗る也跡より乗る者後の方に乗る也非ハハはしノ方ハなかへの方也〉

〈○私考曰二条院ハさか木の巻にアル二条院ナリ拾介抄ナトニイフ二条院ニハアラテ二条殿トイフニアタレリ然ヲ二条院トナソラヘテイヘルニヤ拾介抄ニ条院二條南東洞院東入道大相国道長造之ニ條関白傳領〉

【一八ウ】

テニ非ズヒトツヲ著(キテ)也此ニ◇(アリツル)小ウチキトアル小ウチキハヒトヘトハ違也上(ウヘ)ニキル者也初ニヒトヘトアリ置ト云テ此デ◇(ア

リツル)小ウチキト云テハ合又也小ウチキハ残リアツタ也サスガニ腹立トハ
思召ドモ御ゾハヨルキテネルヲキル者也ゾハナンデモキル者也ソコデ先ギヨ
シナル也小君ソバニフセラセテ其方シ様アシイト被仰カツハカツ又コレド
ウセヨト被仰也アコハ其方ハカアイケレドモツライムゴイ空蟬ノユカリ故
其方モ長ハフビンニ思マイトマメヤカニマ顔ニ被仰也小トモ心ニ実ニ源氏ノ
被仰カトツライ也シハシ源氏ネテミテモヲ心ニカ、リネラヌ也御一硯召
ヨセラレサシハヘトハワザトキツト立後朝ノフミノ様ニシテ遣サルニハ非ス
テ習ハテンガウノカキステノ様ニヲ書被成タ也

○空蟬の—此歌デ此卷ニウツセミト名ヲ附タ也小ウチキアトニ残シテヌケル
故蟬脱(センダツ)ミル様也モトセミハヌケテ外ノ虫ニナル故

【一九〇】

ニコ、ハ空蟬ヲタトヘ云也キヌヲ枝ニ懸ラク者故木ノモト也猶人—空蟬ヌケ
レバ小ウチキガ人ガラ也ソコヲ空蟬ノシンヒント取ナシテ云也源氏ノカキス
テニシタヲ小君フトコロヘ入レ持タ也カノ人モ—ソコデ源氏軒端ノ萩ノ心ナ
ント思テアルゾ後朝ノフミトテ是非遣者ナル故アクレハ小君召シテマイレリ
カタ／＼—又空蟬モシ聞軒バノ萩ヘフミ遣ト聞テハスマヌ故ニ軒端ノ萩ヘハ
後朝ノフミモナイ也カノウスキヌハ—カノ空蟬ヲイテユクウススキヌハ夏ノ小
ウチキ故ウススキヌ也ウツセミノ人(ヒト)香(●ガ)残ル故身ニ近ク著(キ)
タリナドシテラク也小君—婦テ姉ノ方へ行バマツツケハ小君クルヲ待テアル
也小君導テ源氏入レル故小君シカラント待付也又一ハ源氏ドウ思召スト聞タ
イ也ソレ故源氏コヒシサニ待付テモウハムキハキビシウ也ヤラネバナラヌ也
姉云ハワルイシ様也源氏ゴ

【一九〇】

ザルハキノドク也我ハハイカクレマギラシテモ人シルマイニ非スノガレ処ナ
イ也イト—其方ノ御誘引(ユウイン)スルハセン方ナイ悪イシ様也イト—カ
クノ如クイカニ小ドモナレバトテカウシタ心バヘデ源氏ヘラメニカケルハカ
ツ其方ハ被仰付デスルト思ドモ源氏ノ却テ思召ハ先我ハ人ノ妻也姉ナルニ其
方ノ被仰付テモ使スルハ不届ト源氏思召ント也左右—源氏へ行ハセメコチラ
ヘクレバシカル故カノ御—トハ思ヘドモ源氏ノ書空蟬ノ身ヲカヘテゲルト云
テナラヒノ反古(ホウグ)出ス也サスガニ—又サスガ也カウシカルハシカレ
ドモ空蟬モ見タイ也カノモヌケヲ—カノモヌケハ空蟬ノヌケガラノ様ニ小ウ
チキ置テクルヲコレヲハ又モヌケト云也ソノモヌケノキヌサツハリトシタニ
非ス空蟬キナラシテ小ウチキ故カウシタ事アラントモシラズイカニト也シホ
ナレテベタ／＼シテアルガ源氏ノヲネニカ、ルガ笑止也ソレモ源氏大切ニ思
故也源氏ノヲ心切(キ)レン様ニト思ヒ源氏

【二〇〇】

ノヲ心イカニ思ンカト古イ者残也是モ鈴鹿川—ト云哥ノ心也此伊勢ヲト云ヲ
ノ字スマヌ者也イセノアマナト、コソ云ベキ也ノジマノアマモ女ノコト也ヲ
トコノ事モアマト云也イセヲノアマハイセノ男ノアマ也外ニ註釈ナヒ者也カ
点ユカヌ者也サマ／＼空蟬モ源氏ノ事思ヒセ間ノ事モ思也西ノ君モ—軒端ノ
萩モ是モ人ハシラネドモドコトモナフ我心ノヲニデ恥シイ也ユウベ源氏ニ逢
故ナリ夜アケン故イヌル也又シル人モ—又外ニ知タ人モナイ也軒端ノ萩也人
ニハシラレズ心一ツニモノ思シテ源氏ノ事ユウベノ事取アツメ思ヒラル也小
君—小君モドリアチへ行コチヘユクヲ見テ小君見テモハヤ源氏ノ事思也小君
ヲ以フミヲコサント被仰故ドウシテコヌトツライ也状モコヌ也アサマシト—
フミモコトツケモナヒ故ニドウシタ事デカウシテトエ了簡モセヌ也ソレ程ザ

レテアル故フミ

（○アマハナン女トモアマ也ヲノジ入ハヲトコアマ也）

【二〇ウ】

コヌトテツライ程ノ心ハアル也ツレナキ―コレモ又空蟬也空蟬ハ源氏ニツレナヒ人故ニツレナキ人ト云也サコソ源氏ニヲ目ニカ、ラン様ニ心シツメレドモトハアレドモ源氏ノ浅フモナヒ御信実ヲ有シ―貞節ハ立レドモアリシ―伊予ノ助力妻ニナラヌ先デ親ノモトニ居ルシブンナラバト取―トネガウテモ取カヘシ前ノ身ニナラン者ナレドモ忍―カンニナラネバ源氏ノ方カラ書哥ノカタハラニ

○空蟬ノ―是ハ伊勢ノ哥也伊勢カ家ノ集ニアル伊勢ガ哥也返哥ニヤウ合故ニ取テ入ル是ハ古モアル事也返哥ニ合ハ入レル事アル也伊勢物語ノミチノクノ忍モヂスリタレユヘニミタレンメニシワレナラナクニト云哥返哥ニスル事アル也是モソレト同事也イセノ心ハ蟬ハ木ニトマリ葉ノ陰ニアルハニ置―ハカラモル露ニヌレル也忍ビ―ニ蟬ノハカコノハニカクレヌレルト云ヲ源氏ニヲ

（○十二丁ウアサマシトノトハ如何曰トデ句ヲ切也アサマシ是ハトウゾ也ト思ドモ思ウル―ハ了簡ツカヌ也思ヒウルコトナヒ也ナレタ人ナレハ思ヒ取レトモ初テ源氏ニ逢故ソノ味ナケレドモ只シタハシイ也）

（○ザレタルハジャラコイ也イキスギタキミ也軒バナド十八九ニモナリソノバズギタル也）

（○伊勢物語ノ道ノクノト云返カニ用カアルト同ルイナリ此哥ハ伊勢題取ノ様ニテセミノ哥也）

【二一オ】

メニカ、ラズカケデ涙コボシテアル也懸（カケ）哥蟬故ニウツ蟬ノ―ト云也忍ヒ―ニ我モ涙コボスト也アリシナガラノ我身ナラバト云ガ空蟬ノ一己ノ心也

再門條々

○◇（五丁ヲ抄）六花集古ヘアル集也タレ作ト云コトナク書集者也六帖ノ類也六帖今アリヤ曰アリ板ナシヤ曰然リ

○◇（同丁）雜藝哥如何曰未考古キ哥也哥ノ心ハ如何曰モトカゾヘ難様ニシテアルコト也カゾヘズヨマデモ本ヨリシルナラント云事ナラン

○◇（五丁ウ抄）俊成卿ノ女新古今多入新勅撰自讚哥ニモ入也定家ノ妹源道具「新古今ノ撰者也」ノ妻也哥上手也

○◇（七丁ヲ抄）風吹と―ノ哥出処如何曰凡源氏ノ引哥ハ古今後撰拾遺扱ハ六帖万葉モトヨリ也先三代集ハナレヌ也ソレ故人皆知ラヌ故ニ本哥ニシテヨイ也ソレトモ元シレヌハ本哥ニナリニクイナレトモ先ソレ也

○◇（七丁ヲ）まろハねたらんろハルトヨムヤ曰コ、ハロトヨムヘシ人ノ名ナレバルトヨム也

○◇（七丁ウ）サコソ忘―サコソ如何曰前ニトダヘノ事アルソレヲ承テソウコソ也

【二一ウ】

強テ心ナヒ也二丁ウカタハライタシト思フニ―ウカラマシ是承也

○◇（八丁ウ）アヘカニモ思ヒマトハズアヘカ如何曰アイラシイキミ也不調法ニモナイ也訓ハ如何音ノ事ニハ非相ノ意ニハ非ズベトイト五音通ズル也

○◇（十丁ウ）今唯今―上ノ今如何曰重テ云也今タツタ今ト云也タツタ今トハ非也ト貞徳説アリ如何曰タツタ今ハ俗也タツタ―ツアルト云同事也今日俗

語ニハ用テヨイ也ヨイハルイト云ハ文章ニカヽリテノ事也

○◇(十一丁ヲ)今キコエントテハ今後答ントテ也今云ハントテ去也文ノ飾也

○◇(十一丁ヲ)アバメルハ如何日ハゞミコハムト同事也シ様アシイト云事也又アバメト云説アルアハ／＼シイシ様アシイト云也心ハアバメ也ヨムハアハメ也